

きょうど せんじん まな か がわ あい ひとびと
郷土の先人に学ぶ —ふるさと香川を愛した人々—

か がわ う きょうど はってん つつ ひとびと
◎香川で生まれ、郷土の発展に尽くした人々

さんぎょうけいざい ぶんや かつやく ひとびと
産業経済の分野で活躍した人々

さき やま しゅう けい
向山周慶 1764 (延享3) ~ 1819 (文政2) 年 白砂糖の精製に成功 医師

ひがし しみなと う さい ひらがげんない たかまつ いしゃいけだげんじょう けんきょう う つ しろ
東かがわ市湊に生まれる。16才で、平賀源内や高松の医者池田玄文の研究を受け継ぎ、白砂糖の精製に成功した。

しこく へんろ とちゅうびょうき さつま せきりょうすけ たす れい
四国遍路の途中病気でたおれた薩摩の関良助を助け、その礼として、サトウキビの苗を手に入れた。30年におよぶ苦心のすえ、1790年に「雪のように白くて味も良い。舶来品よりもすぐれている」という評判の高い白砂糖をつくり出し、大阪市場で「讃岐の和삼盆」として知られた。

く め えい ざ えもん
久米栄左衛門 1774 (安永3) ~ 1841 (天保12) 年 江戸時代に坂出に塩田を開く 武士・測量家

ひがし しうまやど う おおさか てんもんがく そくりょうじゆつ まな さい たかまつはん てんもんそくりょうかた
東かがわ市馬宿に生まれる。大阪で天文学や測量術を学び、27才で高松藩の天文測量方を務める。機械や武器の発明に優れ、伊能忠敬より早く高松藩を測量した地図を完成させた。高松藩9代藩主松平頼恕に、苦しい財政立て直し策として、儉約をすすめるとともに、砂糖作りの保護・奨励と塩田の開拓を申し出る。坂出に「久米式塩田」と呼ばれる入り浜式塩田を完成させた。

『さぬきの久米通賢 奇人天才』松村哲夫/著 美巧出版2002.10
『久米栄左衛門 創造と開発の生涯』香川県歴史博物館/編 香川県歴史博物館2002.10

かげ やま じん う えもん
影山甚右衛門 1855 (安政2) ~ 1937 (昭和12) 年 讃岐鉄道会社を作る 実業家

たどつちよう う どうきよう しんばし よこはまかん はし きしゃ み てつどう かいぎよう けいかく めい
多度津町に生まれる。東京で新橋～横浜間を走る汽車を見て、鉄道の開業を計画する。明治22年、当時、多度津・丸亀は金毘羅参りの玄関港であったことから、多度津から琴平までの11.3キロメートル、多度津から丸亀までの2.8キロメートルの鉄道を開通させ、讃岐鉄道株式会社を設立した。この後、四国の鉄道網は讃岐鉄道が元になって拡張された。

『景山甚右衛門翁伝』景山翁遺徳顕彰会/編 景山翁遺徳顕彰会 1968

の あみ わ さぶ ろう
野網和三郎 1908 (明治4) ~ 1969 (昭和44) 年 日本で最初にハマチの養殖に成功 漁業功労者

ひがし しひけた あみもと う みえけん すいざんがっこう まな ききょうご あどいけ りよう
東かがわ市引田の網元に生まれる。三重県の水産学校に学び、帰郷後、阿戸池を利用してのハマチの養殖に取り組む。何度も失敗を繰り返して、1935 (昭和10) 年、養殖したハマチを初めて出荷することができた。

『海の牧場を夢みて 養殖漁業にかけた野網和三郎 PHPこころのノンフィクション』香川茂/作PHP研究所1982.10
『ハマチになった野網和三郎 松村哲夫作品集』松村 哲夫/著 讀文社1992.8



鎌田共済会郷土資料館蔵



多度津町より



東かがわ市歴史資料館より

せいじ ぶんや かつやく ひとびと
政治の分野で活躍した人々



財田町より

おお く ほ じん の じょう
大久保 謙之丞

1849 (嘉永2) ~ 1891 (明治24) 年 四国新道に生涯をかける 事業家・政治家

三野郡財田上村 (今の財田町) に生まれる。四国新道の建設をはじめ、讃岐鉄道設置、多度津港改築など、数多くの事業を成功させた。なかでも有名なのが、丸亀から多度津、阿波池田を経て高知にいたる全長約180キロメートルの四国新道建設である。1886 (明治19) 年に着工し、1894 (明治27) 年に完成したが、謙之丞は、工事の完成を見ることなく、42歳の若さで亡くなった。



『新田藤太郎作品集』
高松市立美術館 瀬尾充より

にっ た とう た ろう
新田 藤太郎

1888 (明治22) ~ 1980 (昭和55) 年 彫刻家

三野郡莊内村積 (今の詫間町積) に生まれる。高松工芸学校 (今の高松工芸高等学校) を経て、東京美術学校 (今の東京芸術大学) に学ぶ。在学中に文展・帝展に入選。1932 (昭和7) 年には審査員となる。戦後は、高松に帰り制作に打ち込み、香川県の文化・芸術の向上に力を入れ、県下の美術界に貢献した。作品には、「菊池寛像」、「玉椿象谷像」(高松市中央公園) などがある。

かがわ う きょうど にほん ほってん つ ひとびと
◎香川で生まれ、郷土や日本の発展に尽くした人々

がくじゆつきょういふ ぶんや かつやく ひとびと
学術教育の分野で活躍した人々



くう かい
空 海

774 (宝亀5) ~ 835 (承和3) 年 讃岐が生んだ平安時代初期の僧

多度郡屏風浦 (今の善通寺市) に生まれる。弘法大師ともよばれる。804年、31才の時、第16次遣唐使船に留学生として乗り、危険な船旅の中で唐 (今の中国) の長安に渡り、真言密教を学んで806年に帰国する。816年、43才の時、高野山 (和歌山県) に金剛峯寺を建て、真言宗を開く。空海は、才能に優れ、書の大家として「日本三筆」の一人にあげられている。また、満濃池を直したり、日本最初の庶民の学校「綜芸種智院」を開き学問を広めるなど、数多くの業績があげられる。



丸亀市城西小学校横

いのうえ つうじょ
井上 通女

1660 (万治3) ~ 1738 (元文3) 年 江戸時代の女流文学者

丸亀藩の儒学者井上儀右衛門の長女として生まれる。少女時代に書いた『処女賦』は、儒教の教えをもとに女子の心がけをまとめたもので、「年少の女子博士」ともてはやされる。22才の時、江戸にまねかれ、丸亀藩主京極高豊の母養性院に仕える。江戸へ向かう時の『東海紀行』、江戸での生活を書いた『江戸日記』、養性院の死を悲しみながら帰国するまでの『帰家日記』は、通女三日記として有名。当時の代表的な学者であった新井白石などと交わり、学問を深める。5代将軍綱吉に儒学を講義。その才能と努力に「讃岐の紫式部」ともいわれる。



『井上通女全集』 井上通女全集修訂委員会/編 香川県立丸亀高等学校同窓会 1973



平賀源内先生顕彰会より

平賀源内 1728 (享保3) ~1779 (安永8) 年 江戸時代の発明家・科学者・劇作家

寒川郡志度浦 (今のさぬき市志度) に生まれる。19歳で高松藩の御薬係になる。25歳の春、長崎へ行き、本草学(薬学、植物学)と医学を勉強した。その後、江戸へと出かけ、オランダ語の勉強とともに本格的な本草学の研究に取り組み、学者として認められた。

医学、植物学をはじめ、物理学、化学、動物学、鉱物学、地理学から油絵、焼き物の技術、芝居の脚本とすべての面で人並み外れた才能をみせた。1776年にエレキテルを復元して、人々を驚かせた。51歳でなくなるまで、奇抜なアイデアを生かし様々な仕事を成し遂げた。

『大江戸アイデアマン 平賀源内の一生 日本史の目』 中井信彦/著 さ・え・ら書房 1982.10
『平賀源内 世界伝記文庫』 今井誉次郎/著 国土社 1981



栗山記念館蔵

柴野栗山 1736 (元文1) ~1807 (文化4) 年 寛政の三博士の一人

三木郡牟礼村 (今の牟礼町宮北) に生まれる。子どもの頃から学問が好きで、13~17歳まで後藤芝山について学んだ。礼儀も正しく、模範生であった。18歳で江戸に出て昌平黌に入学し、儒学を学んだ。33歳で京都に移り住み、後藤芝山の先生である高橋図南から国学を学んだ。

栗山の名はやがて幕府にも伝わり、1788年、53歳で幕府に仕え、学問を教えるだけでなく、政治や外交問題などに意見を求められるほどになった。

「寛政の三博士」と呼ばれた栗山は、現在も、学問の神様として尊敬されている。

『一步・そしてまた一步 マンガ柴野栗山』 てつきのこ/作画 牟礼町教育委員会 1991.12



小川太一郎氏より

保井コノ 1880 (明治13) ~1971 (昭和46) 年 我が国初の女性理学博士

三本松村 (今の東かがわ市三本松) に生まれる。幼い頃から賢明で、香川師範学校から東京女子高等師範学校 (今のお茶の水女子大学) に進み、生物学を専攻して、母校の助教授となる。日本女性として最初に外国の学術誌に論文を発表した。

また、アメリカに留学し、帰国後、1927年に石炭の研究で日本女性としてはじめての理学博士となった。

『20世紀のすてきな女性たち 3 マリー・キュリー 保井コノ レイチェル・カーソン 柳澤桂子』 岩崎書店 2000.4
『おおちの三賢人』 大内町/編 大内町 1986



菊池寛記念館より

菊池寛 1888 (明治21) ~1948 (昭和23) 年 文学界で幅広く活躍した小説家

香川郡高松七番町 (今の高松市天神前) に生まれる。四番丁尋常小学校 (今の四番丁小学校) に入学する。早くから読書に興味を持ち、高松中学校 (今の高松高等学校) 時代、家の近くに図書館ができたときには、一番に閲覧券を買い、毎日通い、2万冊の本のほとんどを讀んだと言われる。

小説を書くことのほか、1923年文藝春秋社を創設し、雑誌『文藝春秋』を創刊したり、1935 (昭和10) 年には、芥川賞・直木賞を創設し、新人作家の育成に尽力する。

『逸話に生きる菊池寛』 文藝春秋/編 文藝春秋 1989



三本松高校より

南原繁 1889 (明治22) ~1974 (昭和49) 年 学問の自由を守った教育者

大川郡相生村 (今の東かがわ市相生) に生まれる。県立大川中学校 (今の三本松高等学校) を卒業後、第一高等学校を経て今の東京大学法学部へと進む。卒業後、1921 (大正10) 年、東京大学で政治学を教えた。1945 (昭和20) 年12月から東京大学の総長となる。

総理大臣吉田茂と、戦後の後始末について考え方がくいちがったが、学問の自由と平和を求め、考え方をはっきりと言い、そのころの人々を大変感動させた。

『我がが望 少年南原繁』 岩本三夫/著 山口書店 1985



壺井栄文学館より

つばい さかえ
壺井 栄 1899 (明治32) ~ 1967 (昭和42) 年 日本中を感動させた小説家

しょうずぐんさかてむら いま うちのみちようさかて う たいしやう ねん じやうきやう しょうとしまじゆしん
小豆郡坂手村 (今の内海町坂手) に生まれる。1925 (大正14) 年に上京し、小豆島出身の
しじん つばいしげじ けっこん さい か だいこん は みと ぶんがくうん
詩人壺井繁治と結婚。39歳のときに書いた、『大根の葉』が認められ、プロレタリア文学運
どう さんか いご かき き いえ はは こ こ はは にじゅうし ひとみ
動に参加した。以後『柿の木のある家』、『母のない子と子のない母と』、『二十四の瞳』
めいさく ほっぴやう しょうわ うちのみちようめいようみん
などの名作を発表した。1964 (昭和42) 年内海町名誉町民となる。

『わたしの愛した子どもたち 二十四の瞳・壺井栄物語』滝いく子/著 労働旬報社 1995.8



三木町より

み き しげる
三木 茂 1901 (明治34) ~ 1974 (昭和49) 年 生きた化石を発見した植物学者

みきちやう う ながねんかせきしよくぶつ けんきやう つづ しょうわ ねん
三木町に生まれる。長年化石植物の研究を続けていたが、1941 (昭和16) 年、セコイアの
かせき とされるものの中に、ちがう形のものを見つけ、これを「メタセコイア」と名付けて発
びやう ねんご ちやうこく は しょうぶつ み き はかせ ほっぴやう おな
表した。その4年後、中国に生えている植物が、三木博士の発表したものと同じであること
がわかり、「生きている化石」として世界的に有名になる。

せんご そだ なえ くにつた けんない がっこう こうえん き
戦後、アメリカで育てられた苗がわが国に伝えられ、県内の学校や公園にもこの木がよく
う はかせ しゅしんこう みきちやうがっこう にわ つく
植えられた。博士の出身校である三木中学校には、メタセコイアの庭が造られている。

『三木茂博士の足跡 メタセコイアの命名者』斎藤清明/著 三木茂博士生誕100周年記念事業委員会 2001.12

政治の分野で活躍した人々



大平正芳記念財団より
(国会答弁中の総理)

おお ひら まさ よし
大平正芳 1910 (明治43) ~ 1980 (昭和55) 年 香川が生んだ大政治家 県人初の総理大臣

みとよぐんわだむら いま とよはまちやう う しょうわ ねん だい かいそうせんきよ かがわく
三豊郡和田村 (今の豊浜町) に生まれる。1952 (昭和27) 年の第25回総選挙で、香川2区
りっこうほ どうせん せいじか がいむだいじん おおくらだいじん じゅうやう つと
から立候補して当選し、政治家となった。外務大臣、大蔵大臣などの重要なポストを努めた
のち しょうわ ねん かがわけんじゆせいじん へつ そうりだいじん えら
後、1978 (昭和53) 年、香川県出身者として初の総理大臣に選ばれた。

1980 (昭和55) 年、選挙運動中、急性心不全のため亡くなる。

きやうど
郷土のためには、香川用水、瀬戸大橋の建設、香川医科大学 (今の香川大学医学部) の開
こう ちから つ めいよけんみんだいいちごう
校などに力を尽くし、名誉県民第一号となった。

『大平正芳 人と思想』大平正芳記念財団 1990.6

スポーツ・芸術の分野で活躍した人々



丸亀市猪熊弦一郎
現代美術館より

いの くま げん いち ろう
猪熊弦一郎 1902 (明治35) ~ 1993 (平成5) 年 自由で明るい世界を描いた画家

たかまつしなかじんちやう う たいしやう ねん けんりつまるがめちやうがっこう いま まるがめこうとうがっこう そつ
高松市中新町に生まれる。1924 (大正13) 年、県立丸亀中学校 (今の丸亀高等学校) を卒
ぎやう じやうきやう ほんごうやうが けんきやうしよ まな どうきやうびじゆつがっこう いま どうきやうげいじゆつだいかく せいやうがか にやうがく
業。上京して、本郷洋画研究所に学び、東京美術学校 (今の東京芸術大学) 西洋画科に入学
する。1934 (昭和9) 年、香川県美術展覧会創立推進の一人として活躍。

さくひん にんげんみ じゆんすい じやうかん なが じゆう あか せかい じつげん
作品には、人間味のある純粋であたたかい情感が流れ、自由で、すんだ明るい世界を実現
まるがめしいのくまげんいちろうげんだいいびじゆつかん おお さくひん てんじ
している。丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に、多くの作品が展示されている。

『猪熊弦一郎の人間像 伯父の思い出』坂口恭平/著 坂口恭平 2003

水原 茂

1909 (明治42) ~ 1982 (昭和57) 年 名三塁手から球界を代表する指揮官になった野球選手
高松市に生まれる。高松商業で投手、三塁手として甲子園優勝を果たした。慶応大学に進学し、卒業後巨人軍に入団。長年にわたり名三塁手としてプロ野球で活躍した。戦後巨人の監督に就任して、同軍の黄金時代を築き、また東映、中日の監督を歴任してチームを強化育成する。野球評論家としてプロ野球界の発展に貢献し、昭和52年野球殿堂に入った。

『野球王国・高松が生んだ宿命のライバル 水原茂と三原脩の野球人生 特別展』
高松市歴史資料館/編 高松市歴史資料館 1999.10



(水原 茂) (三原 脩)
高松市中央公園

三原 脩

1911 (明治44) ~ 1984 (昭和59) 年 “魔術師” と呼ばれた名将 野球選手
仲多度郡神野村 (今の満濃町) に生まれる。丸亀中学校 (今の丸亀高等がっこう) から高松中学校 (今の高松高等学校) に転校する。早稲田大学に進学し、卒業後巨人軍に入団。助監督を兼ねて草創期のプロ野球で活躍した。戦後、巨人、西鉄、大洋、近鉄、ヤクルトの監督を歴任、通算3248試合をしき指揮する。特に西鉄時代の三連覇、大洋の驚異的な日本制覇は有名。昭和49年には日本ハム球団社長に就任し、プロ野球の発展に尽くす。昭和58年野球殿堂に入った。

『魔術師 三原脩と西鉄ライオンズ』立石泰則/著 小学館 2002.11

大松博文

1921 (大正10) ~ 1978 (昭和53) 年 女子バレーボールを世界一に導く
元全日本女子バレーボールの監督

綾歌郡宇多津町に生まれる。1964 (昭和39) 年の東京オリンピックで、日本女子バレーボールチームの監督として活躍した。当時の強豪ソビエト連邦 (今のロシア共和国) を破り、国民待望の金メダルを獲得した。当時の日本チームは身長はもちろん攻撃力、守備力でも劣っていた。そこで、「回転レシーブ」を考え出し、スパイクを拾って拾いまくるという猛練習を行った。現役を退いてからは、全国の家庭婦人をはじめ中国、韓国など国際的な指導者としても活躍し、平成12年、世界のバレーボールの発展に寄与した功労者としてバレーボール殿堂入りを果たした。

『おれについてこい わたしの勝負根性 HOW TO BOOKS』大松博文/著 講談社 1963.6
『なせばなる 続おれについてこい』大松博文/著 講談社 1965.2



宇多津町より

◎他所から来て香川の発展に尽くした人々

政治の分野で活躍した人々

菅原道真

845 (承和12) ~ 903 (延喜3) 年 学問の神様 政治家・学者

天神様と呼ばれ、学問の神様として信仰されている。
886年 (平安時代初期)、国司として讃岐国にきた。道真の住まいは、讃岐国の中央にあたる綾歌郡綾南町滝宮の官舎 (今は滝宮天満宮が建てられている) であった。讃岐の国内を詳しく見て周り、農民のくらしをよくするために力を尽くした。この年、讃岐国は日照りに悩まされており、池や川の水がごとごとくかれたので、道真は、城山 (坂出市) に一週間もって雨乞いをし、見事に雨を降らせることに成功したと伝えられている。
書道や文学にすぐれ、府中 (今の坂出市府中町) に学校を建て、役人や農民の子を集めて学問をさせた。



滝宮天満宮 蔵



三重県津市

西嶋八兵衛

にしじま はちべえ 1596 (慶長1) ~ 1680 (延宝8) 年 多くのため池を築いた讃岐の水の恩人 土木技術家
とうみのくに いま しずおかけん う さい いせのくに いま みえけん つ ほんしゅうどうたかどら つか
遠江国 (今の静岡県) に生まれる。17歳で伊勢国 (今の三重県) 津の藩主藤堂高虎に仕え、
にじょうじょう おおさかじょう しゅうり しごと どほくぎじゅつ に つ
二条城や大阪城の修理などの仕事をして、土木技術を身に付けた。

ひで がいくる さぬき ほんしゅういこまたかとし そふ どうとうたかどら たの はちべえ さぬき
日照りの害に苦しんでいた讃岐の藩主生駒高俊は、祖父の藤堂高虎に頼み、八兵衛を讃岐
にまねいた。1624年から15年間、生駒高俊に仕えた八兵衛は、土木工事の面で多くの優れた
しごと まんのういけ しゅうり あま いけ きず どほくこうじ めん おお すぐ
仕事をした。満濃池の修理をはじめ、90余りのため池を築いた。また、高松に新田を開いた
り、2筋に分かれていた香東川の流れを今のような1本の流れにするなど、八兵衛の功績は、
いま かがわけん かくち のこ さぬき だいおんじん い
今も香川県各地に残っており、讃岐の大恩人と言える。



『西嶋八兵衛と栗林公園 治水利水の先覚者』 藤田勝重/著 大禹謨顕彰会 1962.11

◎香川にゆかりの人々



『高松市松平家歴史資料 香川県歴史博物館保管』より

那須与一

なすの よいち へいけものがたり もっと ゆうめい ぼめん おうぎ まと しゅやく
平家物語の最も有名な場面・扇の的主役。
げんじ へいけ たたか げんじ ぶし
源氏、平家が戦ったときの源氏の武士。
とちぎけん おおたわらし う なすのよいち ぶんじがん ねん がつ にち やしま たたか としき ゆ
栃木県大田原市の生まれ。那須与一は1185 (文治元) 年2月18日「屋島の戦い」の時に、「揺
ふね うえ おうぎ まと い へいけ ちようはつ げんじ だいはう むすか まと い
れる舟の上の扇の的を射よ」との平家の挑発に、源氏の代表として、この難しい的を射るこ
とに成功した。このことは、へいけものがたり かんじゅういち なすのよいち しる
「平家物語 卷十一 那須与一」に記されている。
げんざい よいち おうぎ まと い お と き う ま と こ ま た て い わ お う き ま な か い お と
現在、与一が扇の的を射落とす時、馬を止めたたとされる「駒立岩」や、扇の真ん中を射落
せるように祈ったとされる「祈り岩」が、牟礼町に残されている。



『教科書に出てくる人物学習辞典5』 学習研究社 1998



かがわけんけいさつ
香川県警察シンボルマスコット
「ヨイチ」のモデルは那須与一です。

イサム・ノグチ

めいじ しょうわ ねん
1904 (明治37) ~ 1988 (昭和63) 年
牟礼町にアトリエを構えた世界的な彫刻家



『イサム・ノグチ写真集』
野口ミチオ 草月美術館より

う ねんだい ちようこくか どうかく あらわ しょうねんじだい にほん せいねんじだい
ロサンゼルス生まれ。1930年代に彫刻家として頭角を現す。少年時代を日本で、青年時代
をアメリカで過ごし、制作活動に入ってから、居を一か所に定めることはなく、アメリカ、
にほん い き たよう さくひん のこ ねん らいにち いのくまげんいち
日本、ヨーロッパを歩き来しながら多様な作品を残した。1950年に来日したとき、猪熊弦一
ろう たんげけんぞう こうゆう せんご にほんびじゅつ けんちくかい おお えいきょう あた ねん むれちよう
郎、丹下健三らと交友、戦後の日本美術・建築界に大きな影響を与えた。1969年 牟礼町に
アトリエを設け、ここを拠点にたくさんの作品を創る。

へいせい ねん てん せきちようちようこくさくひん こうかい ていえん
1999 (平成11) 年、このアトリエと150点の石彫彫刻作品を公開するイサム・ノグチ庭園
びじゅつかん かいかん
美術館が開館した。